

2024-25 年度

WEEKLY REPORT ROTARY CLUB OF FUKUSHIMA WEST, D2530



第
2530
地区

福島西ロータリークラブ会報

会長 寺 島 英 樹
幹事 佐 藤 宗 弘
奉仕プロジェクト
委員会委員長 宮 崎 秀 剛
会報写真担当 佐 藤 卓 立

令和 6 年 9 月 2 日(月) 第 8 回 通算第 1706 回例会

・ 例会日/月曜日 12:30 ・ 例会場/ウェディング エルティ ☎ (024) 535-6188

事務所/福島市万世町 2-5 福島銀行本店 9F ☎ (024) 536-1010 ・ FAX (024) 536-1011 Eメール/ f-rotary@guitar.ocn.ne.jp

第 8 回例会 点鐘 12:30

◇開会点鐘
◇ロータリーソング
「我らの生業」
ソングリーダー
佐藤 慶行 会員

寺 島 英 樹 会長



◇四つのテスト唱和
久米 允彦 会員



◇お客様紹介並びにビジター紹介
米山記念奨学生 稽 鐘源 さん

◇米山記念奨学金
9 月分給付



◇9 月誕生祝い

- 宍戸 順一 会員 昭和 47 年 9 月 11 日
- 高根 典子 会員 昭和 53 年 9 月 23 日
- 松林 克次 会員 昭和 37 年 9 月 24 日
- 高橋 達也 会員 昭和 36 年 9 月 30 日



◇会長あいさつ

寺 島 英 樹 会長



◇幹事報告

佐藤 宗弘 幹事

○例会変更のお知らせ

- 次週 9 日(月)の例会は理事会承認休会となっております。
- 16 日(月)、23 日(月)は祝日のため休会となりますので、よろしくお願いいたします。

○その他のお知らせ

- 9 月のローターレートは 1 ドル 145 円となっております。
- 本日、9 月理事会を 18:30 より峰亀にて開催いたしますので、役員・理事の皆様宜しくお願いいたします。

委員会報告

◇出席・スマイリングボックス小委員会報告

久米 允彦 会員



○寺島英樹会長

9 月も宜しくお願い致します。

○佐藤宗弘幹事

9 月誕生祝の皆様おめでとうございます。稽君のスピーチ楽しみにしております。

○久米允彦会員

9 月になったら急に暑いですね。

○齋藤武二会員

いつまでもお暑うございます。

○高橋智弘会員

ケイ君、スピーチ楽しみにしてます。

○高根典子会員

スピーチ楽しみにしております。本日より預金金利引き上げとなっております。元気に頑張っていきます。

○宮崎秀剛会員

本日の例会スピーチ楽しみにしております。

朝倉久仁男会員／大平謹一郎会員／佐久間政文会員
／佐藤卓立会員／佐藤慶行会員／野尻榮一会員

スマイリング BOX 集計 13 件 26,000 円

ご協力頂きました皆さん、ありがとうございました。

◇ロータリーの友 9 月号の紹介
公共イメージ委員会

佐藤 卓立 委員長



◇本日のプログラム

◆米山記念奨学生スピーチ

稽 鐘源 さん



皆さん、こんにちは。今日は、中国山東省にある青島（チンタオ）という都市についてお話ししたいと思います。青島は、その美しい風景、豊かな歴史、多様な文化、そして急速な経済発展で知られる都市です。

まず、青島の歴史についてです。青島（チンタオ）の歴史は、古代から現代に至るまで、さまざまな文化や勢力が交錯する中で形成されてきました。この都市の歴史は、地域的な戦略的要地としての重要性や、外国勢力の影響を強く受けた独特の発展過程によって特徴付けられています。

I 古代から中世までの青島

青島の地域には、古代から人々が居住していた痕跡が残されています。考古学的な調査により、この地域では少なくとも 5000 年以上前から人類が活動していたことが確認されています。青島周辺は、漁業や農業を中心に発展してきた海岸地域であり、黄河文明の一部としても機能していました。

中世になると、青島は中国の沿岸部における重要な軍事拠点としての役割を果たすようになりました。特に、唐代から明代にかけて、海上交通の要所としての戦略的価値が高まり、海賊や異民族からの防衛拠点としても重要視されました。

・ドイツの租借と近代化（1897-1914 年）

青島の歴史において最も大きな転換点となったのは、19 世紀末のドイツ帝国による租借です。1897 年、ドイツ帝国は青島を軍事拠点とし、これを中国から 99 年間借り受けることに成功しました。この租借契約は、1898 年に正式に調印され、青島はドイツの支配下に置かれることとなりました。

ドイツは、この地域をアジアにおける主要な軍事・商業拠点とするために、積極的な都市開発を行いました。青島は、この時期に近代的な都市へと変貌を遂げます。ドイツ人技術者によって計画的に整備された街路や上下水道、電力供給システムなどが導入され、西洋風の都市が形成されました。特に、現在も残る多くのヨーロッパ風建築物は、この時期に建設されたものです。青島迎賓館（旧総督府）や聖ミカエル大聖堂などがその代表例であり、現在でも観光地として人気を集めています。

また、ドイツは青島において経済活動を活発に行い、青島港を整備して貿易のハブとしました。さらに、1903 年には青島ビールの前身となる醸造所を設立し、青島ビールはその後、中国国内外で高い評価を受けるブランドに成長しました。

・日本統治時代（1914-1922 年）

第一次世界大戦が勃発すると、日本はドイツに対して宣戦布告し、青島を攻撃しました。1914 年、日本は青島を占領し、ドイツからこの地域の支配権を引き継ぎました。これにより、青島は約 7 年間にわたって日本の統治下に置かれることとなります。

日本統治時代、青島は引き続き経済的に発展を続けました。日本はドイツ時代に築かれたインフラをさらに拡充し、工業化を推進しました。また、日本の文化や教育制度が導入され、青島は東アジアにおける重要な工業都市としての地位を確立していきました。この時期に建設された青島栈橋（旧栈橋）などのインフラは、現在でも青島の象徴的な存在となっています。

・青島の返還と中華民国時代（1922-1949 年）

1922 年、ワシントン会議の結果、青島は日本から中華民国政府に返還されました。これにより、青島は中国の主権下に返ることとなりました。この時期、中華民国政府は青島のさらなる発展を目指し、教育機関や公共施設の整備を進めました。

青島大学の設立や青島港の拡張などが行われ、青島は中国の北方における重要な港湾都市としての地位を維持しました。しかし、1920 年代から 1940 年代にかけての中国国内の政治的混乱や日中戦争（1937-1945 年）の影響により、青島は一時的に停滞を経験しました。

・中華人民共和国時代（1949 年以降）

1949 年の中華人民共和国成立後、青島は再び中国の一部として新たな時代を迎えました。中国共産党の指導の下、青島は社会主義体制のもとでの工業都市として発展を続け、特に 1950 年代から 1970 年代にかけて、国有企業を中心とした工業化が進められました。

1980 年代以降、中国の改革開放政策の下で青島は経済特区として指定され、国内外の投資が促進されました。これにより、青島は急速に国際化し、ハイテク産業やサービス業が成長しました。今日、青島は中国北方の主要な経済拠点として、また貿易、観光、文化の重要なハブとしての地位を確立しています。

青島はその豊かな歴史を背景に、伝統と近代化が見事に融合した都市として発展を遂げています。歴史的

な建築物や文化遺産が、現代の都市景観の中で息づいており、その独特の魅力が訪れる人々を魅了し続けています。

II 青島の文化

・建築文化

青島の建築文化は、特にドイツ租借時代(1897-1914年)の影響を強く受けています。この時期に、ドイツ人によってヨーロッパ風の都市計画が行われ、多くの西洋風建築が建てられました。これらの建物は、今日でも青島の街並みに独特の異国情緒を与えています。

代表的な建築物には、八大関景区があります。ここは、ドイツ、フランス、ロシアなど各国の建築様式が集まったエリアで、旧外国人居留区として整備されました。また、聖ミカエル大聖堂は、ドイツのカトリック教会が建てたネオロマネスク様式の壮大な建物で、青島の象徴的存在です。さらに、青島迎賓館(旧総督府)は、ドイツ総督の官邸として建設され、豪華な内装と歴史的価値で知られています。

これらの建築物は、青島が「東方のスイス」と称される理由の一つであり、観光客にとっても魅力的なスポットとなっています。

・食文化

青島の食文化は、山東料理を基盤としつつ、沿岸都市ならではの豊富な海鮮料理が特徴です。青島は黄海に面しており、新鮮な魚介類が豊富に手に入ります。

地元の料理は、素材の持ち味を生かすシンプルな調理法が多く、特に牡蠣やアワビ、カニなどが名物です。

青島ビールは、この地域の食文化の象徴です。1903年にドイツ人によって設立された青島ビールは、伝統的なドイツの醸造技術に基づき、世界的に高い評価を得ています。毎年8月に開催される青島ビール祭りは、アジア最大のビール祭りとして知られ、ビールと地元の料理を楽しむ絶好の機会です。

青島の食文化は、ビールと海鮮料理が融合したユニークなものであり、地元の人々の生活と切り離せない存在です。

・祭りイベント

青島は、祭りやイベントが活発に行われる都市でもあります。その中でも、青島ビール祭りと青島国際映画祭が特に有名です。

青島ビール祭りは、1980年代に始まり、現在では数週間にわたる大規模なイベントとして成長しました。この祭りでは、国内外から集まったビールブランドと共に、地元の海鮮料理や音楽、パフォーマンスを楽しむことができます。この祭りは、青島の食文化と社交的な雰囲気を象徴するイベントです。

青島国際映画祭は、映画産業の発展と国際的な映画文化の交流を目的としたイベントで、毎年多くの映画制作者や映画ファンが集まります。青島は、中国映画産業の拠点としても注目されており、この映画祭はその地位を高める一助となっています。

・宗教と信仰

青島は、宗教的にも多様な文化が共存する都市です。伝統的な中国の仏教や道教に加え、ドイツの影響を受けたキリスト教、そしてイスラム教徒のコミュニティも存在します。

青島の背後にそびえる嶗山(ラオシャン)は、中国道教の聖地として知られ、多くの道教寺院や道観が点在しています。

嶗山は、青島の精神的なシンボルであり、道教の神聖な場所として多くの信仰者が訪れます。

また、青島市内にはいくつかのモスクがあり、イスラム教徒のコミュニティも見られます。

これにより、青島は多様な宗教が共存する都市となり、宗教的な寛容が根付いています。

・芸術と文学

青島は、芸術や文学の分野でも豊かな伝統を持っています。20世紀初頭、中国の新文化運動の一環として、多くの文学者や詩人が青島に集まりました。作家の老舍や詩人の徐志摩など、青島で活動した文学者は中国現代文学に大きな影響を与えました。

また、青島は映画産業の拠点としても知られています。青島東方影都(Qingdao Oriental Movie Metropolis)は、中国国内外の映画が撮影される施設であり、青島は映画文化の重要なハブとなっています。

総じて、青島の文化は、伝統的な中国文化に加えて、ドイツや日本の影響、そして国際化による現代の影響が融合した独自のものです。この多様な文化背景が、青島の街並みや食文化、祭り、宗教、そして芸術に表れており、訪れる人々に多彩な体験を提供しています。

III 青島の経済

青島(チンタオ)の経済について、特に日本との関係に焦点を当ててお話ししたいと思います。青島は、その戦略的な位置と多角的な経済発展によって、中国国内外で重要な地位を占める都市です。港湾都市としての役割、製造業の発展、ハイテク産業の育成、そして日本との経済的な結びつきが、青島の経済を支える柱となっています。

まず、青島の港湾都市としての役割についてお話しします。青島は、中国北方における最も重要な港湾都市の一つであり、青島港は中国最大級の港湾として機能しています。青島港は、アジアとヨーロッパを結ぶ海上貿易のハブであり、輸出入の窓口として中国経済に大きく貢献しています。この港を中心に、物流業や倉庫業、船舶関連産業が発展し、多くの雇用が生み出されています。さらに、青島港は自由貿易区として指定され、国内外の企業が青島を拠点にビジネスを展開するための重要なインフラを提供しています。

次に、青島の製造業において中国でも有数の製造業の中心地であり、特に家電産業や自動車産業が盛んです。海信(Hisense)や海尔(Haier)といった大手家電メーカーは青島に本社を構え、世界中に製品を輸出しています。これらの企業は、技術革新と品質向上に注力し、青島をハイテク製造業の拠点へと発展させています。また、自動車産業においても、国内外の自動車メーカーが青島を生産拠点とし、自動車部品の生産や組み立てを行っています。これにより、青島は中国における自動車産業の一大拠点としての地位を確立しています。

ここで、青島と日本との経済関係について詳しくお話しします。青島は、日本との経済的なつながりが非常に強い都市の一つです。多くの日本企業が青島に進出しており、これが青島の経済発展に重要な役割を果たしています。例えば、トヨタ自動車、日立製作所、三菱電機などの大手企業が青島に製造拠点を設けています。これらの企業は、青島を製造拠点としてだけでなく、中国市場へのアクセスのための重要な拠点として位置付けています。

日本企業は製造業だけでなく、サービス業や物流業など、さまざまな分野で青島に進出しており、これにより青島は日中経済交流の一大拠点となっています。

また、青島と日本との関係は、経済面だけでなく文化的、技術的な交流にも及んでいます。青島は、日本の複数の都市と姉妹都市提携を結んでおり、経済ミッションや文化交流イベントが定期的に行われています。これにより、日中両国間の相互理解が深まり、経済活動の促進につながっています。

技術面でも、日本企業は青島に技術研修やトレーニングプログラムを提供し、現地の技術者の育成に貢献しています。これにより、青島の産業技術が向上し、地元企業の競争力強化にもつながっています。また、青島は、日本との貿易関係においても重要な役割を果たしています。日本は青島の主要な貿易相手国の一つであり、特に機械類や電子機器、化学製品などが日本から青島に輸出されています。一方で、青島からは繊維製品や電子部品、食品などが日本に輸出され、双方の貿易が活発に行われています。

青島は、近年ハイテク産業の育成にも力を入れており、新興企業やスタートアップの集積地としても成長しています。特に青島西海岸新区では、ハイテク産業や先端技術の開発に特化したエリアが形成されており、半導体、バイオテクノロジー、人工知能などの分野での研究開発が進められています。日本企業もこれらのハイテク産業において青島との協力を強化しており、共同研究や技術開発プロジェクトが進行中です。

最後に、青島の観光業と日本からの観光客についても触れておきたいと思います。青島は美しい自然景観と歴史的な建築物が豊富で、多くの観光客を引きつけています。日本からも多くの観光客が青島を訪れており、観光業は青島経済の重要な柱の一つです。青島ビール祭りや歴史的建造物巡り、海辺のリゾートなど、日本人観光客にとっても非常に魅力的な観光地となっています。また、青島と日本を結ぶ直行便やフェリーが運航されており、交通アクセスが良好であることも、日本との観光交流を促進しています。

総じて、青島は中国の経済発展の重要な拠点であり、特に港湾都市としての役割、製造業、ハイテク産業、観光業など、多岐にわたる分野で成長を続けています。

日本との経済的なつながりも非常に深く、多くの日本企業が青島に進出し、両国間の貿易や技術交流が活発に行われています。これからは、日本との協力関係を強化し、さらに国際的な都市としての発展を遂げることでしょう。今日の発表は以上になります。

ご清聴ありがとうございました。

◇閉会点鐘	寺島 英樹 会長
◇会報カメラ担当	
公共イメージ委員会	佐藤 卓立 委員長